

本年度の 重点目標	確かな学力と逞しく生きる人間力の主体的育成 (「校訓」知・仁・勇の推進—文武両道—)			
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評 価	評価結果と課題
<p>中高一貫教育 (管理職)</p> <p>職員の健康管理</p>	<p>・保護者・地域への情報発信</p> <p>・長時間労働による職員の健康障害の防止</p>	<p>・校内で新しく組織した生徒会広報部を中心に、愛知県教育委員会あいちの学び推進課と連携を図る。他県の先進的な取組を参考にして、校内の検討委員会で検討した計画を具体的に進めていく。</p> <p>・職員の勤務時間を適正に管理することで、長時間労働による健康障害を防止する。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・愛知県初の中高一貫校として、全職員で多くの取組を行うことができた。県内外の先進的な取組を行っている学校に職員を派遣し、情報共有することもできた。来年度に向けてさらに取組を充実させていく必要がある。</p> <p>・長時間労働が続く職員に適切に声掛けを行いつつ、全職員の勤務時間を適正に管理した。特に職員の退勤時間をほぼ午後8時にすることができた。</p>
<p>・総務関連の行事のあり方の見直し</p> <p>・PTA組織再編の検討</p> <p>・防災関係の見直し(総務)</p>	<p>・R8年度に向けて、行事等の見直しを行う。</p> <p>・PTA組織の研究</p> <p>・防災についての見直しを図る。</p>	<p>・附属中学校・高校普通科ともに修学旅行の検討を行う。</p> <p>・中高一貫校としての組織の見直しを図る。附属中学校との関わり方について検討する。</p> <p>・高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」への参加に合わせて検討を図る。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・それぞれの違いがあるため、組織を見直す必要があり、対応が遅れた。</p> <p>・新たに、3名の附属中学校の委員を迎え入れることができた。</p> <p>・運用について、まだまだ検討が必要である。検討は進んでいるものの、具体的な方策について、決定に至っていない。</p>
<p>教育活動の充実 (教務)</p>	<p>・各教科における取組の情報の共有化</p> <p>・探究的な授業の研究・取組</p>	<p>・各学年や各教科の取組を知り、教科指導の改善を話し合うきっかけとなるようにする。</p> <p>・国際探究科で行われる探究型の授業について、各教科で研究や実践をし、各教科ごとに報告を行う。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・他の教科の取り組みを参観し、学ぶ機会を設けた。また、附属中学校の授業も参観し、中高一貫で授業改善に取り組んだ。</p> <p>・ワークショップを開催し、実践報告会を行った。今後、授業改善や評価について、さらなる発展をしていく必要がある。</p>

<p>進路指導の実践 (進路指導)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの夢や志の創成と、その実現に向けた支援 ・進路実現のための学力補強 ・新制度入試の検証及び研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部が作成したキャリア教育計画に基づき、インターンシップの報告会や外部講師による講演会などを行う。 ・家庭学習時間の達成度や学習している教科のバランスの確認を定期的に行う。 ・PTA学習委員会と共に、土曜学習会、補習等の学習支援活動を行う。 ・昨年度からの新制度入試を検証し、本校がとるべき対策を考え、生徒・職員に還元する。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初の計画に加え、国際探究科生徒保護者に対する進路講演会やキャリアコーディネーターをお招きして、生徒そして保護者に対しても講演会を開催することができた。また、卒業生が入学した縁をきっかけに、三条市立大学の学長先生に講演して頂く機会を設けることができ、生徒の視野を広げる手助けをして頂いた。 日々の指導においては、PROG-H を活用した個に応じた指導に取り組むことができた。そして、進路指導室に多くの生徒が進路相談に来てくれたおかげで、生徒との信頼関係も築くことができたと感じた。 <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜学習会は、昨年度同様の方針で運営し、今年度も参加状況は昨年度に引き続きおおむね良好であった。ただ、補習に関しては、学習塾に頼る生徒が一定数存在した。教科の協力により、生徒たちの学力や志望に応じた講座を開講して頂き、当初補習に申し込まなかった生徒も補習に参加してくれた。 また、年度途中でA I教材を導入したことで、生徒たちの日々の学習の手助けをすることができた。生徒たちの学習状況も可視化することができ、生徒と教員間の学習に関する会話が増えた。 <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各大学から頂いた情報を進路検討会や担任会に文書で明示し情報共有することによって、生徒に還元することができた。また、総合型選抜入試や推薦入試に対しても、大学からの情報を基に、面接・小論文指導など積極的に行い生徒に還元すること
---------------------------	---	---	---

(国際探究科)	・国際探究科生徒に対する進路指導方針の検討	・各大学の入試方式や既に国際系の学科がある高校の進路指導方針についての情報をもとに検討していく。	B	<p>ができた。</p> <p>・6月と12月に生徒と保護者を対象に進路講演会を行い、一般選抜のほか総合型選抜や学校推薦型入試について情報や理解を深める機会を提供した。</p>
学校生活におけるマナーの向上 (生徒サポート)	・制服の着こなし、または交通マナーの向上	<p>・制服の着こなしについて日常的に声かけをする。</p> <p>・登校時の交通安全指導をさらに充実させる。</p>	B B	<p>・TPOに合わせての着こなしは理解しつつあるが、実践できていない生徒もわずかながらいる。</p> <p>・事故件数は減少しているが、交通マナーに関する苦情は減っていない。</p>
生徒の健康と安全 (保健相談)	<p>・生徒の心身の健康把握</p> <p>・校内の環境美化</p>	<p>・定期健康診断や毎日の健康観察等を活用して、生徒の心身の健康状態を把握し保健指導や相談活動に役立てる。</p> <p>・教育相談連絡会(毎週)等を利用して情報共有に努める。</p> <p>・週2回の一斉清掃と特別清掃を行い、校内美化に努めるとともに、生徒のごみ分別の意識を高める。</p> <p>・学年ごとに、年1回の除草作業を行う。</p>	A A B A	<p>・養護教諭を中心に、担任とも連携をとって、生徒の状況を把握し対応できた。</p> <p>・教育相談連絡会も各学年と連携を図り、情報共有を通して適切な対応に寄与できた。</p> <p>・週2回の清掃では、校内美化を維持するのは困難であった。特にトイレについては度々汚れの指摘を受けた。来年度は週3回を確保できるよう働きかけたい。</p> <p>・3学年とも天候に恵まれ、順調に行うことができた。来年度も引き続き実施したい。</p>

<p>生徒会執行部による 学校行事の運営 (生徒会)</p>	<p>・生徒会執行部の主体的行動の育成</p>	<p>・学校行事の準備・運営において、生徒会執行部が自ら考え、行動できる場を設ける。</p> <p>・生徒会での取り組みを校内に発信していく。</p>	<p>A</p> <p>・執行部をはじめ多くの生徒たちの協力のもとで学校行事を運営することができた。文化祭のエンディングではアンケートを工夫して実施できた。</p> <p>A</p> <p>・執行部生徒が校内規範の在り方など、課題意識をもち、積極的に全校生徒に働きかけることができた。</p> <p>A</p> <p>・「学校案内」の刷新、体験入学の実施機会の工夫などを通じてより効果的に本校の魅力を発信できた。また、本校公式インスタグラムのフォロワーも昨年度より900人増え、より多くの方々に興味関心をもっていただける発信を続けたい。</p>
<p>広報活動の企画・運営 (広報)</p>	<p>・学校説明会の実施</p>	<p>・本校の教育活動と中高一貫教育の内容について近隣の小・中学校、保護者、児童生徒へ発信する。</p>	<p>A</p> <p>・「Noah」のアップデートを行った。長年できなかった蔵書管理システムを更新した。</p> <p>A</p> <p>・充実した図書館オリエンテーションを行うことができた。</p> <p>A</p> <p>・図書館まつり等に附属中学校が参加できないか検討を続けた。</p> <p>A</p> <p>・生徒端末やプロジェクトの管理について適切に対応した。</p> <p>A</p> <p>・システムの移行以外にも校務のICT化を推進できた。</p>
<p>図書館の利用推進と 読書習慣の普及 (図書情報)</p>	<p>・図書館の利用推進と蔵書管理システムの確立</p> <p>・全校生徒への読書習慣の普及と定着</p>	<p>・図書館の蔵書について、バーコードでの管理を推進し、貸出業務の利便性を高めるとともに、蔵書管理システムの構築を図る。</p> <p>・図書館オリエンテーションの内容の充実をはかり、図書館により親しめるものとする。</p> <p>・図書委員会を生かした図書館の年間行事を実施し、読書習慣の普及と定着を勧める。</p>	<p>A</p> <p>・充実した図書館オリエンテーションを行うことができた。</p> <p>A</p> <p>・図書館まつり等に附属中学校が参加できないか検討を続けた。</p> <p>A</p> <p>・生徒端末やプロジェクトの管理について適切に対応した。</p> <p>A</p> <p>・システムの移行以外にも校務のICT化を推進できた。</p>
<p>情報機器の利用促進</p>	<p>・ICT機器の授業等での活用</p>	<p>・授業等でICT機器を使用する方法を研究する。</p>	<p>A</p> <p>・システム移行以外の校務のICT化を推進できた。</p>
<p>ネットワークシステムの運用・管理</p>	<p>・校務・学校運営での円滑な活用</p>	<p>・システムの移行や更新に適切に対応する。</p>	<p>A</p> <p>・アメリカ首席領事講演会、カナダ領事講演会をはじめ、南山大学模擬授業、愛・知・みらいフォーラム、アントレプレナーシップ講座、タイ姉妹校オンライン交流、英語合宿、タイ姉妹校訪問研修、オーストラリア語学研修は、計画通り実施できた。</p> <p>B</p> <p>・国際探究科の行事は、次年度は探究ウィークを使ってスリム化していく方向である。</p>
<p>国際理解教育 (国際探究)</p>	<p>・探究学習を取り入れた国際理解教育</p> <p>・国際探究科開設準備</p>	<p>・国際探究科・国際理解コース模擬授業、国際理解講演、姉妹校オンライン交流、英語合宿、海外研修の内容を検討する。</p> <p>・国際探究科のカリキュラム及び行事計画の再考</p>	<p>A</p> <p>・アメリカ首席領事講演会、カナダ領事講演会をはじめ、南山大学模擬授業、愛・知・みらいフォーラム、アントレプレナーシップ講座、タイ姉妹校オンライン交流、英語合宿、タイ姉妹校訪問研修、オーストラリア語学研修は、計画通り実施できた。</p> <p>B</p> <p>・国際探究科の行事は、次年度は探究ウィークを使ってスリム化していく方向である。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・国際バカロレア準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際バカロレアのDP(高校)候補校申請、認定校申請に向けた教育課程編成 ・中高一貫での国際探究関連行事選定 ・国際探究科の修学旅行計画・立案・下見 	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際バカロレアのDP候補校となった。教育課程編成は引き続き検討中である。 ・中高一貫で、領事館による講演会を2度聴くことができた。 ・国際探究科の韓国修学旅行を計画し、下見を行うことができた。保護者説明会も行った。
探究学習 (国際探究)	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」の改編 ・「国際探究科」3年間の探究学習の立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度新入生の「総合的な探究の時間」をより充実させる。 ・令和7年度2年生の「総合的な探究の時間」をより充実させる ・「国際探究科」の全教科で探究的な学習の推進を図る。 	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は外部教材で探究の基礎を学んだ後、地域探究を進めた。社会人を招き、津島あま地区の課題を提示してもらい、班で協働して情報収集・分析を行い、解決策を検討した。中間発表では専門家の評価を受け、探究を深めた。班活動は活発で、高校生ならではの視点で具体策を考える班も多かった。年間を通して、前向きな探究活動ができた。 ・2年生は興味や関心に基づきテーマを選び、年間を通して個人探究を行った。学問分野別にゼミを編成し、仮説設定や情報収集・分析を進めた。最終成果をポスターセッションで発表する。ゼミ内で協議や中間発表を重ね、相互に意見交換しながら研究を深めた。一方で、調査がネット検索に偏り、課題設定が甘く探究が浅い生徒が多いなど課題を残した。 ・11月に高校教員が附属中学校のMYPの授業を2種類以上見学し、探究的な学習の仕方を学んだ。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが主体的、対話的で深い学びを行い、確かな学力を身につけられるよう、授業改善がなされたが、まだ道半ばである。特に高校側の授業改善を来年度は進めたい。 ・「Be Gentle!」の旗印のもと主体的に行動を改善できるようになりつつある。 ・進路実現のために、自らの学びのアセスメントを活用する生徒も出てきた。 ・国際探究科を中心に、国際的な取組は年々充実してきている。 			